

山田みやこの活動報告

令和5年6月29日(木)

表題 こども食堂と私たちの地域・社会

栃木県自治研究センター設立50周年記念講演会

講師 湯浅誠氏（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

こども食堂とは

- ・参加に条件のない、高齢者も参加、多世代交流目的、子ども、生活貧困者…など、手段・属性・所得で割らない公園のような場所。
- ・地域にはもともと線引きはない。住民間に線を引かない最も身近な居場所。
- ・孤食対応、貧困の連鎖を断ち切る、子育て支援、虐待防止、高齢者の健康、賑わいづくり・地域活性化など多世代交流の場として、それぞれの地域の人々を元気にする存在。

居場所とは

- ・誰かにちゃんと見守ってもらえる
 - ・受け止めてもらえる
 - ・尊重されている
 - ・つながっている
- …と感じられるような関係性のある場のこと。

支援のために制度化するには、対象者・年齢など属性枠を決めなければならない。

多様性・自発性・住民自治・民間活動などを重視するには、行政は制度化・予算化ではなく、活動を盛り上げたり、支える工夫が必要。

ふるさと納税・ガバメントクラウドファンディング等を活用した、企業マッチング・地域マッチングで行政の信用力・公平性を活かし活動を支えて欲しい。

※行政の信用力を活かしたコーディネートという、新たな手法で既に実績を挙げている自治体があることを知った。